

プラットフォーム名	コホート・生体試料支援プラットフォーム
研究期間	平成28年度～平成33年度
研究支援代表者	今井 浩三 (東京大学 医科学研究所 特任研究員)
研究支援代表者からの報告	<p><u>(1) プラットフォームの目的及び意義</u></p> <p>本プラットフォームの目的は、以下の3点です。1) 日本人一般集団約13.5万人のコホート研究(*) データおよびDNA等の生体試料を系統的に収集・安定保存し、これを日本人の体質に応じた個別化予防・医療の創出に向けた研究に広く活用すること。2) 倫理面に十分配慮した上で、いただいた死後脳をリソースとし、精神・神経疾患の解明を目指した研究支援のための、日本ブレインバンクネットワークの構築と、それらの運用促進に注力すること。また、3) 多彩なヒト生体試料を用いた生体内分子動態や生体指標の高感度解析支援を、豊富な試料・情報の収集・提供と独自の高度技術で行い、疾病の原因探索、診断・治療に貢献すること。</p> <p>いずれも、大切なヒト試料を扱うことから、倫理面と、「十分な情報提供と合意」には時間をかけ、機関の委員会等で詳細な審議のうえ了解を得られた場合に限り、生体試料として研究に使用させていただくよう、厳格に運用しています。</p> <p>極めて多数のバイオリソースを使用する支援を行うことにより、がん、糖尿病、高血圧、痛風等の特徴を知ることになり、診断・治療のみならず、予防にも役立てることが可能となります。また、認知症や神経難病等の原因解明や新たな治療法の開発にもつながることが期待されます。</p> <p>(*コホート研究：特定の要因に曝露した集団と曝露していない集団を一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生率を比較することで、要因と疾病発生の関連を調べる)</p> <p><u>(2) 研究支援活動の進展状況及び成果の概要</u></p> <p>毎年春から夏に実施される、生命科学連携推進協議会主催の4プラットフォーム合同の支援説明会、成果シンポジウム、パネルディスカッション、ならびに、協議会や各プラットフォームのホームページにより広く研究者に支援の広報活動を行っています。さらに、本プラットフォームにおいては、国民の皆様の本支援へのご理解をいただくために、市民公開講座を実施しております。また、わが国の他のコホート研究とも連携を開始しております。平成30年度には、欧米のブレインバンク担当研究者に来日いただき、国際ブレインバンクシンポジウムを開催しました。これにより、国民の皆様のご理解が特に重要であること等が示され、今後の日本ブレインバンクネットワークにとっても重要な国際連携の機会となりました。</p> <p>また、日本分子生物学会、日本生化学会、日本がん転移学会等で、アンケート活動、パネル展示による支援の説明等をきめ細かに展開して、支援内容を周知しています。また、多くの学会とホームページ上でリンクを張ることで、広報に努めています。</p> <p>以上の成果として、開始後の2年半(2016年4月—2018年10月)で、合計2,308件、毎年平均約893件もの研究支援を実施しました。科研費種目別にこれを見ると、新学術領域研究に加えて、比較的少額な研究費である基盤研究Cの取得者に対する支援が最も多く、若手研究Bや挑戦的萌芽研究にも支援が実施されています。</p>

	<p>本プラットフォームの支援により Ann Rheum Dis, Proc Natl Acad Sci USA, Gut などの一流誌に、世界最先端の研究が発表されており、本支援活動の大きな成果が認められます。</p>
<p>科学研究費補助金審査部会における所見</p>	<p><u>A (プラットフォームの目的に照らして、期待どおりの進展が認められるため、事業計画のとおり継続を認める)</u></p> <p>本プラットフォームの目的は、主として以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本人一般集団のコホートデータ及び DNA 等の生体試料を系統的に収集・整理・安定保存し、他のコホートとの連携。 2) 死後脳をオープンリソースとした、精神・神経疾患の解明を目指した研究支援のための日本ブレインバンクネットワークの構築と運用の促進。 3) 研究者から支援要望が多いアプローチが極めて困難で多彩なヒト生体試料を用いた多角的解析支援。 <p>以上により、生命現象の本体解明を行う画期的な研究成果の発出と次相移行を支援するものである。</p> <p>採択時からの3年間に、335の科研費採択課題に対して2千件以上の支援を行っており、順調に支援実績を伸ばしている点や、支援を受けた課題の中から幾つかの重要な研究成果が出ている点は高く評価できる。</p> <p>また、所見等への対応として、各コホート間の連携やブレインバンクネットワーク構築が進展しつつある。</p> <p>今後は、コホート研究に従事している研究者以外にも広く認知され利用されるように、支援事業説明会、関連学会での広報活動、研修会について更なる工夫をしていくことが望まれる。</p>